

4) 心不全患者へのβブロッカー処方割合

Proportion of heart failure patients who were administered β blockers during hospitalization

慢性心不全患者や、急性心不全の病状安定後において、βブロッカーは心不全の重症化予防・予後改善に有効です。

注意: 禁忌症例(喘息・房室ブロック・本剤にアレルギー歴、など)や血圧低下などの病態、過去の副反応(心不全の悪化、糖・脂質代謝の悪化 など)による非投与例を分母から除外することが困難なため、本指標は必ずしも100%となるべきものではありません。特に症例が少ない施設で禁忌症例が偶然に多いと処方割合が低くなります。(また、今回の計算では外来処方を含んでいません。)

目標設定: 処方割合も低い(例えば3~4割に満たない)場合、診療内容見直しの余地があると思われます。ただし、この指標には、上記のような限界があります。

参考 「慢性心不全治療ガイドライン(2005年改訂版)」「急性心不全治療ガイドライン(2006年改訂版)」日本循環器学会ほか

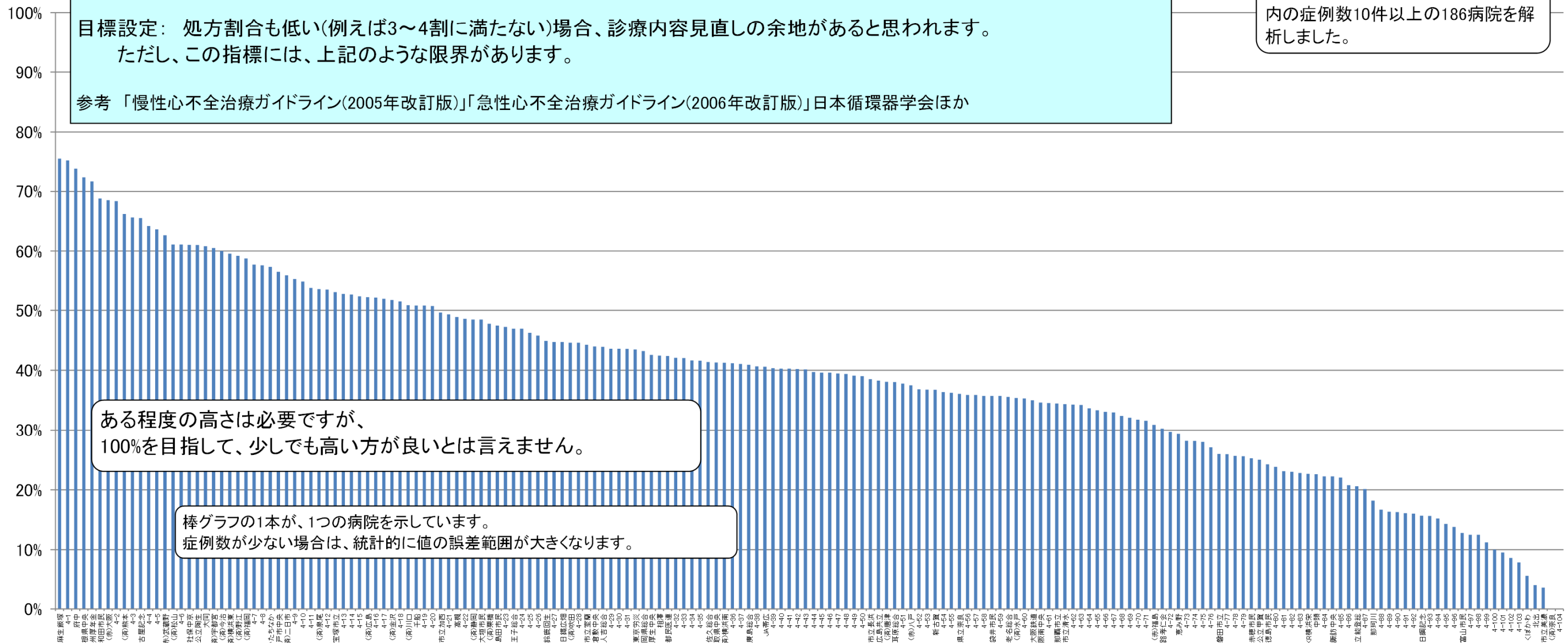
データの定義

分母: DPCコード6桁が050130「心不全」の症例数

分子: 上記のうち、入院中に1回でもβブロッカー(後発品を含む)を処方された症例数

対象データ期間: 2010年4月1日~2010年12月31日の退院症例

データ提出202施設のうち、提出期間内の症例数10件以上の186病院を解析しました。



2009年度の指標(12か月分)よりも対象期間が短い(9か月分)ため、10症例を超える施設数が少なくなっています。

4)心不全患者への ブロッカー処方の割合

(五十音順)

Table with 16 columns: 略称, 病院名(五十音順), 投与症例数, 全症例数, 投与割合, 提出月数, 略称, 病院名(五十音順), 投与症例数, 全症例数, 投与割合, 提出月数, 略称, 投与症例数, 全症例数, 投与割合, 提出月数. Lists hospitals and their medication statistics.